

HAMMOND ORGAN

Super SX-1A, CX-1A

グレードアップ機能 取扱説明書

1991年12月1日

この説明書では、グレードアップした追加機能と従来からある機能の変更点を説明しております。お持ちの取り扱い説明書本文と併せてお読みください。

グレードアップ加工は、内部の電子部品の交換ならびに調整を伴いますので、工事は必ず専門のサービスマン又はサービス認定者にお任せください。お客様ご自身で加工された場合、楽器の動作の保証はいたしかねますのでご注意ください。

新しい機能

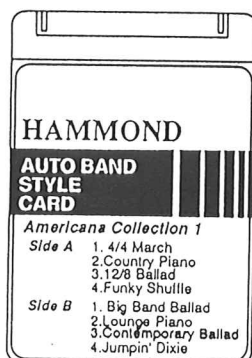
1. デジタル・リバーブを新搭載。
2. オートバンド・スタイル・カードに対応。
3. リズムの機能がアップ
4. SET-UP の機能がアップ。
5. シーケンスの機能がアップ
6. MIDI機能のグレードアップ

デジタル・リバーブ

デジタル・リバーブは、従来のリバーブに比べ、カード・ボイス、ストリングス、オーケストラル・ボイスなど生の楽器の音色を強力に引き立てます。Superシリーズの優れた音色効果を最大限に引き出すデジタル・リバーブです。

使い方は、従来のリバーブと同じくコントロール・パネル右側のスライダーで残響の分量を調節します。残響はやや広めの音場空間を想定してあります。トーンバーを主体にしたジャズやロックの音づくりには、少なめのリバーブが効果的です。セミ・クラシックやオーケストラをコンサート・ホールで演奏しているような空間的な音づくりには、スライダーを中間か又はやや多めに使うと効果的です。また、トーンバーの特種効果として、レスリー・リバーブと組み合わせ、スライダーをいっぱい上げて使うと、はね返りのあるリピート効果が得られます。

オートバンド・スタイル・カードの使い方



内蔵の16パターンのリズムやオートバンド以外に、オートバンド・スタイル・カードで好みのパターンを選べます。8種類のリズム・パターンとあわせてベース・パターンを差し替えてお使い頂けます。

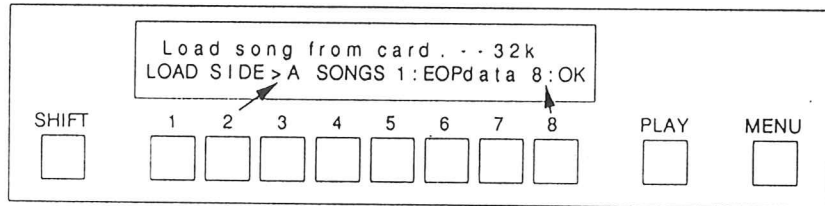
リズム・パターン・スイッチの右側にあるBOSSA NOVA, LATINS, SAMBA, TANGOの4つのスイッチが、オートバンド・スタイル・カードのパターンに変化します。(カードA面B面のいずれか片面づつ)

4つのバリエーション、イントロ、フィル・イン、ブレイク、エンディングが、本体内蔵のリズムパターンと同じように、再生できます。

●LOAD(ロード)の方法

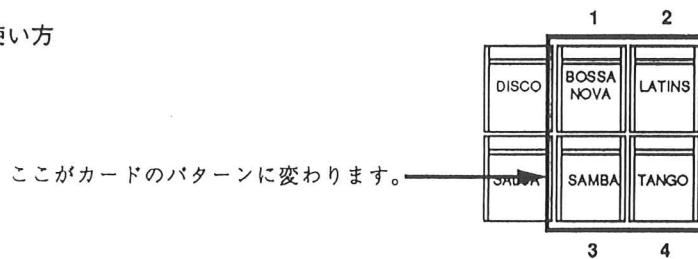
オートバンド・スタイル・カードは、シーケンスのRAMカードと同じように本体に呼び出して使います。

- 1) オートバンド・スタイル・カードをカード・スロットに差し込みます。
- 2) MENUを押して、MENU画面2: CARDを押します。この時、鍵盤や他のスイッチを押さないでください。
- 3) 1: LOADを押します。



- 4) 2: のスイッチを押して、A面またはB面、SIDE>A, >Bを選択してください。
- 5) 8: OKを押します。
- 6) MENUに戻り、ロードが完了します。

●オートバンドの使い方



ロードが完了すると、リズム・スイッチ右端の4つのパターン1(BOSSA NOVA), 2(LATINS), 3(SAMBA), 4(TANGO)が、オートバンド・スタイル・カードのパターンに変化します。(本体にオートバンド用の音源をもたないSX-1A, CX-1Aは、リズム・パターンとベース・パターンがカードのパターンに変化します。)キットに添付されているオーバーレイをリズム・スイッチにかぶせてお使いください。

◆カードのリズム・パターンを使うには...

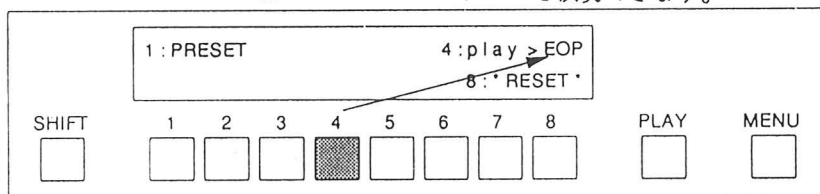
通常のリズムパターンを選ぶ操作と同じように、リズム・スイッチを押してパターンを選びます。通常、オートバンド・スタイル・カードをロードした直後には、リズム・スイッチは1(BOSSA NOVA)の位置になっていますが、カードでロードした1番のパターンを最初に選ぶときには、1(BOSSA NOVA)のスイッチを押し直してください。(ロードの後スイッチの押し直しが無い場合には、ロード前のBOSSA NOVAのパターンのままになります。)

ロードしたオートバンド・スタイル・カードのパターンを元の本体内蔵のパターンに戻すには、リセットの操作を行ってください。リセットをする場合には、シーケンス、セットアップなどのデータも初期状態に戻りますので、RAMカードへのセーブなどお忘れでないかお確かめください。

オルガン本体にロードされたオートバンド・スタイル・カードの内容は、オルガン本体の電源を切ると消去され、再び電源をオンにした場合は、本体内蔵のパターンに戻ります。

◆ベース・パターンを合わせて使うときは...

SX-1A, CX-1Aでは、新しく追加されたプレイ(play)モードをEOP(イージープレイ)に切り換えることにより、カードのリズム・パターンに合わせてベース・パターンを演奏できます。



ベース・パターンを自動演奏する時はメニュー画面で(play)モードをEOP(イージープレイ)に切換えます。

1) MENUを2回押して、MENU画面の2 ページ目を表示させます。

通常、CX-1A,SX-1Aは、リセット操作を行った後の初期状態としてプレイ(play)モードは、SEQ(シーケンス)に設定されています。

2) 4 : のスイッチを押します。表示はEOP(イージープレイ)に変わります。

3) シーケンサーの6つのスイッチのうちレコードを除く5つのスイッチが、イージープレイ機能に変わります。

UPPER : アパー → このスイッチは、本体では機能しません。※

LOWER : ロワー → このスイッチは、本体では機能しません。※

PEDAL : ペダル → オート・ベースの役割をします。

RHYTHM/CONTROL : リズム/コントロール → メモリーの役割をします。

PLAY : プレイ → イージープレイ・システムの役割をします。

4) PEDALスイッチ(オート・ベース)を押します。赤いライトが灯きます。

5) リズムをスタートさせ、下鍵盤でコードを押さえると、リズムパターンに合わせてベース・パターンが自動演奏されます。ベース・パターンは、一度押さえたコード・パターンを次のコードが押さえられるまで繰り返し持続します。

6) この時、RHYTHM/CONTROL(メモリー)をオンにすると、下鍵盤で選んだ音色は、鍵盤から指を離しても次のコードが押えられるまで持続します。

ベース・パターンの自動演奏は、メニュー画面の(play)モードが、SEQ(シーケンス)では演奏できません。(play)モードをEOP(イージープレイ)に切り換えてください。

◆イージープレイ・システム

SX-1A, CX-1Aは、本体にはオートバンド機能は装備していませんが、メニュー画面の(play)モードがEOP(イージープレイ)の時には、シーケンサーのプレイ・スイッチが、イージープレイ・システムの働きをします。イージープレイ・システムをオンにすることにより、簡単にコード音を鳴らすことができます。下鍵盤で押さえた和音を楽器が認識し、それに合ったコード音を鳴らします。(下鍵盤の音色をトーンバーなどでセットしてください。)

メジャー・コード 根音(ルート:コードの基本)一音押さえます。

マイナー・コード 根音と短3度上の音を同時に押さえます。

セブンス・コード 根音とセブンスの音を同時に押さえます。

マイナー・セブンス・コード 根音とセブンス、短3度上の音を同時に押さえます。

本体にオートバンド用の音源をもたないSX-1A, CX-1Aは、リズムに合わせてベース・パターンのみを自動演奏しますが、メニュー画面の(play)モードがEOP(イージープレイ)の時には、シーケンサーのアパー、ロワーの2つのスイッチが、オートバンドのMIDI出力スイッチの役割を果たし、オートバンド・パターンをMIDIデータとして出力します。このことにより、GM MIDI規格の外部音源モジュールをMIDIを通して接続することにより、外部音源でオートバンドのバックグ・パターンを鳴らすことができます。(GM MIDI規格は、発音する音程データと音色を指定するコードを組み合わせたMIDIの新規格ですが、音域や音色、音価などを適切なバランスに合わせるために、外部音源側でエディット(編集や調整)を必要とする場合があります。)

オートバンド1 (UPPERのスイッチ) コードのチョッピングを出力します。

オートバンド2 (LOWERのスイッチ) コードのチョッピングとオブリガートを合わせて出力します。

リズムの新しい機能

パターン・スイッチ、バリエーション・スイッチ

リズム・パターンは、2小節パターンで構成されます。このことにより、一層変化にとんだドラムやパーカッションの演奏をお楽しみいただくことができます。[→本文参照ページ10-1,2,3]

従来のリズムパターンを基本的に踏襲したパターンが内蔵されていますが、一部のリズム・パターンが変更されます。(MARCH Var.2,3が4/4に、BOSSA NOVA イントロが1小節に、TANGO Var.3がハバネラ→タンゴに変更されています。)

演奏の途中でパターンやバリエーションを切り換える場合、スイッチを押した所で、すぐに次のパターンに切り換わります。

シーケンスのリズム/コントロール・トラックに記憶させ、RAMカードに保存してお使いの方は、上記の点にご注意ください。

メニュー画面2ページ目の(play)モードがEOP(イージープレイ)の時には、シーケンサーのレコード・スイッチ(赤いスイッチ)がエンディングの機能をし、リズムのエンディングが追加されます。

リズムの演奏中にこのスイッチを押すと、押した小節の残り部分を通常のパターンで演奏し、次の小節からエンディング・パターンを演奏し、自動的にストップします。通常は、2小節のエンディング・パターンですが、オートバンド・スタイル・カードなどのパターンでは、これ以外の長さや、オート・リタルダンド効果(曲のエンディングの雰囲気をつくるために、リズムのテンポ・コントロールには関係なく自動的にゆっくりとしたテンポに下げます。)をあらかじめプログラムされたパターンもありますので、実際の演奏の前に、あらかじめ曲想などに合わせてチェックしておかれることをお勧めします。

演奏にシーケンサーを使うシーケンス・モードではこのエンディング機能は使えません。

SET-UP の新しい機能

カードボイスの音色エディット・データやリズム・テンポをセットアップ・カードに記憶します。カードボイスの音色をプレイ画面シフトを押してエディット・モードでお好みの音色に変化させ、各パラメーターをセットアップの各ブロック毎に記憶します。このことにより、一層複雑な音色の設定も手軽にセットできます。[→本文参照ページ14-1,2] [→本文参照ページ16-2]

(1ブロックに記憶できる内容)

- 1.プリセット・データ(1~8)
- 2.プレイ画面でシフトを押したときに表示されるカード・ボイス1~7の各パラメーターの値(エディット・データ)
- 3.テンポ・メモリー

1	2	3	4	5	6	7	8
カード・ボイス・エディット・データ							
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
1	2	3	4	5	6	7	
テンポ・メモリー							
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

●カード・ボイスのエディット・データを記憶

カード・ボイスは、それぞれ音色毎に異なるビブラートやトレモロ、コーラスなどの細かな設定(パラメーター)の値が、あらかじめセットされていますが、各値は、演奏者の好みにより、変更できます。演奏前に必要なこの作業をより一層能率良く行なうために、各音色毎のパラメーターの値を7音色分、1ブロックに記憶します。[→本文参照ページ13-1,2]

また、1~8のプリセットにはカード・ボイスの括弧()の位置を記憶できますが、プリセットとしては、

どのボイスを選ぶのかということだけを記憶しますので、異なるプリセットに同じカード・ボイスの異なる音色設定を記憶することはできません。例えば、カード・ボイス7番のピアノ(Pian)のエディット・データを設定し、5番と8番のプリセットにカードボイス・オンで、ピアノ(Pian)を記憶させた場合、5番で使われるピアノの音色と8番で使われるピアノの音色は同じ音色になります。

また、VRC(ボイスROMカード)には前述の通りあらかじめ各音色毎にパラメーターの値が併せてプログラムされていますので、ボイスROMカードをメニュー画面1番のVoice inのスイッチを押してオルガン本体にロード(読み込み)する度に、カード自身にプログラムされたパラメータの値が設定されます。ですから、エディット・データを保存したセットアップ・カードは、必ずお使いになりたいボイスROMカードをオルガン本体にロードした後で、ロードしてください。(先にセットアップ・カードをロードしても、後でボイスROMカードをロードすると、エディット・データは、ボイスROMカードの値に戻されてしまいます。)

オルガン本体にロードする際にセットアップにエディット・データを記憶させてある場合は、
〈ロードの手順〉

- 1.最初にボイスROMカードをVoice inのスイッチを押してロードします。
- 2.次にセットアップ・カードをロードしてください。

●テンポ・メモリーを保存

16あるリズムの各スイッチは、それぞれに異なるテンポを記憶しています。

この機能をテンポ・メモリー機能と読んでいますが、演奏者により変更されたテンポを16のリズム・スイッチを1セットとして1ブロックの中に保存できます。[→本文参照ページ10-3]

テンポ・メモリーは、セットアップ・カードにプリセット・セーブをする時に設定されている16のリズム・スイッチの各テンポをそのまま記憶します。

セーブ作業の前に、お使いになるリズム・スイッチのテンポをご確認ください。

セットアップ・カードに、プリセットやエディット・データに合わせて曲で使うリズムをそのテンポに合わせて保存させておき、シーケンスのリズム/コントロールトラックに曲の冒頭でリズム・スイッチの切り換えを記憶させ、シーケンス・カードに保存することにより、セットアップとシーケンス2枚のカードをロードし、シーケンスのスタート・スイッチを押すと、あらかじめ決めたテンポと音色設定で曲をスタートできます。[→本文参照ページ11-2]

【セットアップ・カードご使用上の注意点】

パネルの基本配列が同じ機種どうしのCX,SX-1Aシリーズ、CX,SX-2500シリーズ(2000JEシリーズ)のセットアップは、オーケストラルを除き、各機種間で共通です。

【注1】 これまでに従来のSX-1,CX-1でつくったセットアップのカード・データは基本的にはそのままお使い頂けます。但し、セットアップのブロックをカードにセーブ(保存)する際に、プリセットをキャンセルの位置にし、ディスプレイのカードボイスの()をピアノ(Pian)の位置にしてからカードのセーブを行なってください。

【注2】 新たにSX-1A,CX-1Aでセーブしたセットアップのカード・データは従来のSX-1,CX-1でロード(読み込み)できますが、各スイッチの記憶内容及び、メニュー画面内のデータが一部変化することがあります。

【注3】 EXシリーズでセーブされたセットアップ・カードは、CX,SXシリーズではロードできません。CX,SXシリーズでセーブされたセットアップ・カードは、EXシリーズではロードできません。

シーケンスの新しい機能

シーケンスのリズム/コントロール・トラックはパネル上の各スイッチのオン/オフやビジュアル・ポインターのボリューム変化を演奏の流れに合わせて記憶しますが、新しい機能としてカードボイスを示すディスプレイのプレイ画面上の () の変更・移動も演奏の流れに合わせて記憶します。

従来のSX-1,CX-1でつくったカード・データはSX-1A,CX-1Aでそのまま使うことができます。但し、リズム/コントロール・トラックで内蔵のリズムを使って曲の途中でパターンの切り換え又はバリエーションの切り換えを記憶させてある場合に、切り換えのタイミングがリアルタイム(即時切り換え)になりますのでご注意ください。リズムの切り換えを早めに行なっている場合、従来に較べ、やや手前でリズムが切り換わります。

新しいMIDI機能

- MIDIメモリー・ダンプ機能
- MIDI START/STOP セレクト
- 機種間共通MIDI コントロール・コード

メニュー画面の4:MIDIのページには、従来よりMIDIアパー、ロワー、ペダルの3つのページがあり、さらに各ページにはプログラム・ナンバーやMIDIチャンネルを設定するためのパラメーターが配置されていましたが、従来のMIDI UPPER,LOWER,PEDALの各ページに加え、新しく以下の2ページが追加されました。[→本文参照ページ15-1,2,3]

ディスプレイMIDIモード4ページMIDIメモリー・ダンプ

ディスプレイMIDIモード5ページMIDIスタート/ストップ

また、従来1番のスイッチを押してMIDIページの切り換えをUPPER→LOWER→PEDAL→UPPER……の順で移動させましたが、新たに2番のスイッチを押すことにより、ページ切り換えを逆方向にPEDAL→LOWER→UPPERというように動かすことができます。

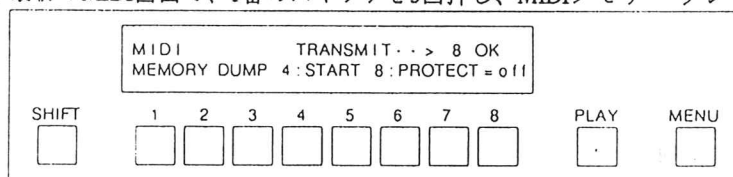
MIDIメモリー・ダンプ機能

プリセット・データをブロック単位で外部メモリーに転送し、保存/再生できるMIDI DUMP (MIDIメモリー・ダンプ) 機能が加わりました。

セットアップ・データをRAMカードに保存するのと同様に、ここではMIDIを通して外部のシーケンサーに記憶・保存させます。

データの保存：外部シーケンサーへの転送

1. MIDIケーブルを、外部シーケンサーに接続します。
2. 保存したいセットアップ1ブロックをつくります。
3. メニュー画面4番のスイッチを押して、MIDIモードに入ります。
4. 最初のMIDI画面で、1番のスイッチを3回押し、MIDIメモリー・ダンプのページに入ります。



5. 外部シーケンサーのテンポを100~120位に合わせて、トラック・レコードをオンにします。
6. 4番のスイッチでスタートを押すと、プリセット1~8の転送を始めます。

※相手方のシーケンサーがシステム・エクスクルーシブ・メッセージを受信できる仕様であれば、この時、

ディスプレイ上段にTRANSMIT --> 1 OK に続き、順に1~8の転送完了のOKを表示します。もし、エラーがある場合には、シーケンサーのテンポ設定やレコーディングが適切な状態で行なわれているかをお確かめください。

7. データの転送が全て終わったら、外部シーケンサーを止めてください。

(セレクトティブ・トランスミット)

上記の転送方法では、1~8の全てのプリセット(つまり、1ブロック)を一挙に転送していますが、ひとつのプリセットだけ(例えば1番のみ)を転送するのがセレクトティブ・トランスミットです。この場合は、上記の操作 6.で、4番のスタート・スイッチを押す前に、シフト・スイッチを押しながら1~8の希望の番号を押してください。上段のTRANSMIT --> 表示に続けて、プリセットナンバーが表示されます。

データの読み込み：シーケンサーからの転送

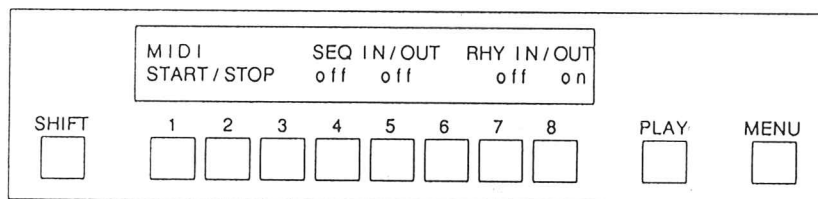
1. MIDIケーブルを、外部シーケンサーに接続します。
2. シーケンサー側で転送したいデータを準備します。
3. メニュー画面4番のスイッチを押して、MIDIモードに入ります。
4. 最初のMIDI画面で、1番のスイッチを3回押し、MIDIメモリー・ダンプのページに入ります。この時、8: PROTECT = off になっていることをお確かめ下さい。プロテクトがオフの時、本体は、外部からMIDIを経由して転送されたデータを受け入れます。プロテクトがオンの場合、データが送られてきても、本体は受け付けません。
5. 外部シーケンサーのテンポを収録時と同じ位のテンポに合わせて再生すると、転送を始めます。
※相手方のシーケンサーがシステム・エクスクルーシブ・メッセージを送信できる仕様であれば、この時、ディスプレイ上段にRECEIVE --> 1 OK に続き、順に1~8の受信完了のOKを表示します。もし、エラーがある場合には、シーケンサーのテンポ設定や再生が適切な状態で行なわれているかをお確かめください。
7. データの転送が全て終わったら、外部シーケンサーを止めてください。

【データ転送のご注意】

シーケンサーへの転送時、シーケンサーのテンポが遅く、シーケンサー再生時にテンポが早い場合、データが正常に転送されないことがありますので、シーケンサーのテンポにご注意ください。

MIDI START/STOP

リズム又はシーケンサーのスタート/ストップセレクト機能加わりました、外部シーケンサーなどを利用しながら内蔵のリズムパターンを曲の一部分で使うなどの細かな編集が可能です。



外部のMIDI機器との間で、スタートやストップの命令をやりとりするために、オルガン本体のシーケンサー又はリズムのどちらのスイッチに対応するかを選びます。通常、オルガン・リセット時には、リズムのスタート・ストップ・スイッチを押したとき、スタート、リズム停止時にストップが送信されるように設定されています。MIDIスタート/ストップは、MIDIモード5ページに表示されます。各パラメーターの下にあるスイッチで、それぞれ、イン、アウトのオン、オフを切り換えます。

※リズムとシーケンサー両方の送信(OUT)をオンにすると、2つの同種の命令が送信され、MIDI通信上命令の反転が起きますので、ご注意ください。